

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 9/6/2018

- 参加プログラム: 香港大学-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-HongKong.html>
- 派遣先大学: 香港大学
- プログラム期間: 8/2/2018 ~ 8/13/2018
- 東京大学での所属学部・研究科等: 学際情報学府
- 学年(プログラム開始時): 修士 1

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:

夏休みの時期なので、他の授業が終わりました。

■参加を決めるまでの経緯:

I participated in this program because I am very interested in the program's topic which focuses on Japanese businesses in Hong Kong and their future challenges under current complex global context. My research at U-Tokyo is to study e-commerce and new business models in both China and Japan, but there is rare opportunity for me to visit a real company and to examine how it works. Therefore, I want to improve my knowledge on the real business world through this program by conducting fieldwork studies.

プログラムについて

■概要:

In the first several days of the program, we took lectures about HK's history, economy, transportation, commerce, international relations and Japanese business development in HK, and conducted field trips of visiting Japanese companies in HK. there were reading materials for each day's lectures, and every morning there was a briefing and debriefing session to remind us what we had learned the day before. In the second week, we conducted interviews which we needed for our final presentation.

■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:

文化活動

■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:

We held parties and played games in dormitory, and visited local culture spots.

■週末の過ごし方:

I met some friends living in HK during weekends and did some shopping. It is a good idea to visit some islands or do hiking but we didn't go since the typhoon came.

派遣先大学の環境について

■設備:

Library and Chi Wah Commons are open to program participants. There are several canteens in HKU campus, serving different style of food. We can access to the HKU wifi easily both on campus and at Shun Hing College.

■サポート体制:

Professor Sonoda and Dr. Nakano helped us a lot with our final presentation. They gave us many useful advice. The TA in this program supported our daily life in Hong Kong. My teammates and other participants helped me a lot with my poor Japanese.

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:
学生寮
■宿泊先の様子、どのように見つけたか:
We were supported to stay in Shun Hing College, a residential hall of HKU, during the program. I stayed in single room, which includes a bed, a desk and a big wardrobe. Bed sheet, pillow and blanket were also provided. The air-conditioner in the room is too strong and too cold. The bath room and shower were shared, and there is a lounge (with simple kitchen facilities) on each floor.
■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等:
The weather was good during most of the time, but we encountered typhoon on the second weekend. Of course, the weather was hot and humid in Hong Kong. There are many delicious restaurants, dessert stores and convenient stores around HKU, which makes life very convenient and happy during the program. For transportation in HK, the MTR is very convenient, but there is a very steep slope on the way to Shun Hing College. During our stay, HKU students introduced and brought us to many delicious restaurant.
■お金の管理方法、現地の通貨事情:
I didn't exchange HKD before going to HK. I directly withdrew HKD from the ATM with my Unionpay Card. For payment in Hong Kong, cash, credit card and octopus card are all available.
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理:
Hong Kong is a very safe city. Be aware of cold and fever due to the cold air-conditioner.
■自由時間に利用した交通手段:
列車
■プログラム期間中に利用したネット環境:
キャンパス Wifi, SIM

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き:
I got the information of this summer program because it is one of the courses in my graduate school, and I asked some details of this program from Professor Sonoda. The application procedure, including the application guideline and the application form, is listed very clear on U-Tokyo Go Global website. Fill and submit the application form, academic transcript, language certificate, etc. to the faculty/graduate school according to the instructions, and the International Exchange Group will follow-up if you are selected.
■ビザの手続き:
I hold one-year multiple entry visa (IANG Visa) to enter into Hong Kong; thus I didn't have to apply for visa.
■医療関係の準備:

I didn't do special medical preparation for this program, but I do recommend bringing some medicine for cold and fever, for the temperature difference is quite huge indoor and outdoor in Hong Kong.

■保険関係の準備:

I only paid for the insurance required by the program.

■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き:

I submitted the application form of going abroad to my graduate school. The course was automatically added into my UTAS system after I was selected to participate in this program, and I got the grade and credit very soon after finishing it.

■語学関係の準備:

English language proficiency is a must for this program, but Japanese is also very important. Most lectures are conducted in English, but some company visits and most group discussion are conducted in Japanese.

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:

航空費	70,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	30,000 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	7,000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円

■その他、補足等:

■留学先で費やした生活費:

家賃	0 円
食費	22,000 円
交通費	2,500 円
娯楽費	8,500 円

■その他、補足等:

■プログラム参加のための奨学金の受給有無:

受給した。

■奨学金の支給機関・団体名等:

東京大学海外派遣奨学事業奨学金

■受給金額(月額):

70,000 円

■受給金額についての補足等:

■奨学金をどのように見つけたか:

大学(本部国際交流課)からの案内, ネット上の情報や掲示物などから見つけた, 教員から聞いた。

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:

The program has enriched my view about HK and Japanese business in HK from a very special angle?neither a Japanese nor a Hong Konger.

■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:

N/A

■進路・就職先(就職希望先):

研究職、民間企業

■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:

Embrace the world when you are still young.

■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:

U-Tokyo Go Global website, which has a lot of information about study abroad and exchange program.

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 2018/08/25

- 参加プログラム: 香港大学-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-HongKong.html>
- 派遣先大学: 香港大学
- プログラム期間: 2018/08/02 ~ 2018/08/13
- 東京大学での所属学部・研究科等: 学際情報学府
- 学年(プログラム開始時): 修士 1

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:

入学後一番早く行ける時期がこの時期だったため。

■参加を決めるまでの経緯:

5 月ごろになんとか立ち寄った国際交流課のサポートデスクでサマープログラムを紹介してもらいました。奨学金が充実していて、リサーチとプレゼンテーションを含むよりアカデミックなプログラムだった香港大学のプログラムに興味を持ち、申し込みました。

プログラムについて

■概要:

講義、フィールドトリップ(見学)とフィールドワークを伴うリサーチ(グループワーク)に大別されます。香港大の生徒とグループリサーチをできたのが刺激的で楽しかった。深く関わり合うことになるので、仲良くもなれます。

■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:

文化活動

■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:

プログラムで拘束されている以外の時間は街をひたすら歩き回りました。自分の足で歩き回り、いろいろ体験することが、話を聞く以上に街を知る手段として大事です。

■週末の過ごし方:

香港大の方と買い物に出たり食事をしたりして過ごしました。彼らがローカルなお店に連れて行ってくれたるのが楽しかった。

派遣先大学の環境について

■設備:

wifi を無料で使えます。作業の時はラーニングコモンズ(広い!)を利用できました。図書館は利用できましたが、入る機会がありませんでした。

■サポート体制:

TA の方もいてサポートもしっかりしています。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:

学生寮
■宿泊先の様子、どのように見つけたか：
Shung Hing College という寮に無料で宿泊できます。相部屋が基本のようですが(体質的な理由があり)希望を出したら個室にしてもらえました。最寄りの Kennedy Town 駅から寮までの坂がえげつない角度ですがミニバスを使えば歩いて上がらなくて済むようです。Kennedy Town はローカルなご飯屋さんが多くて楽しい街です。
■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等：
香港の交通機関は充実しています。食事もおいしいです。
■お金の管理方法、現地の通貨事情：
クレジットカード決済及びキャッシングを用いていました。2 枚持っていました。中盤で運悪くスキミング被害に遭ったので片方のカードを停止しました。リスク分散のため 2 枚持っていくことをお勧めします。あと基本はキャッシングで現金利用を行った方が良いでしょう。香港の suica であるオクトパスカードは市内どこでも使えて便利なので初日に買いましょう。
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理：
香港は外は暑く、室内は冷房がガンガンで寒いです。上着を忘れずに！(僕は上着を着ていたのに風邪をひきました。それほど寒いのです)
■自由時間に利用した交通手段：
列車、バス、スターフェリーとトラムは乗るだけで楽しいので是非試してください。
■プログラム期間中に利用したネット環境：
キャンパス Wifi、SIM

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き：
エントリーシートのようなものを提出しました。素直に思っていることを書けば良いと思います。
■ビザの手続き：
日本国籍者はビザなしかと思います。
■医療関係の準備：
常備薬は多めに処方してもらって携行しました。
■保険関係の準備：
大学より指示される保険に加入しました。
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き：
海外渡航届を提出しました。
■語学関係の準備：
院試のときに受けていた TOEFL iBT(score 89)をそのまま提出しました。スコア等提出なしで採用された人もいます。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用：

航空費	35,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	30,000 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	3,000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■その他、補足等:	
奨学金が7万円出たので航空券とプログラム代はそれで賄えました。	
■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	30,000 円
交通費	5,000 円
娯楽費	20,000 円
■その他、補足等:	
香港の物価は東京と同じくらいといった印象です。費用はあまり記録していなかったので多めに見積もりました。	
■プログラム参加のための奨学金の受給有無:	
受給した。	
■奨学金の支給機関・団体名等:	
日本学生支援機構	
■受給金額(月額):	
70,000 円	
■受給金額についての補足等:	
以前書いた通りプログラム代と航空券代はこれで賄えたのでかかったのは食費・交通費・娯楽費だけでした。	
■奨学金をどのように見つけたか:	
大学(本部国際交流課)からの案内	

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意味、その他所感:
海外で学ぶということはどういうものか、ということを経験できたのがまず大きな収穫です。そして香港の街に多く知り合いができたことも嬉しかった。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:
漠然としていた留學生活のイメージがより鮮明になった。
■進路・就職先(就職希望先):
研究職、博士課程に進学し、研究者を目指します。
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:
院生の方には是非もっと参加してほしいです。グループでのリサーチを行う上で、ある程度研究慣れしている院生が貢献できることは多々あります。リーダーとして、東大と香港大の学部生メンバーをリードしていく経

験も刺激的で楽しいですよ。

■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:

「香港を知るための 60 章」は様々な面から香港を知る上で有用です。歴史を知りたければ岩波新書の「香港 中国と向き合う自由都市」を読みましょう。あとは提供される reading assignment を適宜読めばいいかと思います。航空券は skyscanner で探しました。街に関する情報という面では、定番ですが地球の歩き方は情報量が多くて有用です。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 8/26/2018

- 参加プログラム: 香港大学-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-HongKong.html>
- 派遣先大学: 香港大学
- プログラム期間: 8/2/2018 ~ 8/13/2018
- 東京大学での所属学部・研究科等: 工学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 3

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:
大学が長期休暇期間だったため。
■参加を決めるまでの経緯:
以前から中国に行きたいという思いがあり、夏の休暇期間を利用して渡航できる良い機会であったため参加することを決めた。また英語を使う環境に身を置き立ったため、それも理由の一つになった。

プログラムについて

■概要:
事前に用意された資料を読み、当日様々な方の講義を聞いた上で交流する参加体験型のプログラムだった。後半は自身でテーマを設定しフィールドワークを通して最終日のプレゼンを作り上げていく形式だった。講義を通して香港や海外でのビジネスなどについて深く学ぶことができ、後半のフィールドワークでは香港市内の観光を兼ねて自身の興味ある分野を掘り下げることができた。
■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:
文化活動
■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:
プログラムの予定が細かく決められていて、かつ短期間だったためボランティアやインターンに参加する時間はなかった。香港大学の生徒との交流を通して、文化的な知見を得ることができた。
■週末の過ごし方:
香港を観光した。

派遣先大学の環境について

■設備:
図書館、学習スペースを利用できた。食堂も問題なかった。wifi 環境も十分だった。スポーツ施設は利用することができなかった。
■サポート体制:
TA のサポートが常にあったので安心してプログラムに参加できた。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:
学生寮

■宿泊先の様子、どのように見つけたか：
キャンパス横の学生寮で２人でルームシェア。高層ビルで設備も新しく、特に問題はなし。プログラムに寮の使用が含まれていたので探す必要はなかった。
■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等：
湿度が高いが、日本と似た気候。地下鉄ですぐに都心部にアクセスでき立地も良かった。食事も日本人の味覚に合ったものが多く問題なし。
■お金の管理方法、現地の通貨事情：
現金が便利な場所だった。意外とクレジットカードが使えないので現金を用意するのが望ましい。
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理：
冷房が強いので防寒着を用意することが望ましい。
■自由時間に利用した交通手段：
列車、バス
■プログラム期間中に利用したネット環境：
キャンパス Wifi、レンタルしたルーター

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き：
個人情報や奨学金、成績証明書などの提出物を所属学科含めて本部に提出した。事前に計画的に準備することが望ましいと考える。
■ビザの手続き：
特になし。
■医療関係の準備：
特になし。
■保険関係の準備：
大学が進めた保険に加入。特になし。
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き：
研修前に提出物などを提出し、単位認定のための手続きを行う予定。
■語学関係の準備：
指定された論文などの確認などで英語に慣れ、研修に備えた。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:		
航空費	60,000	円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	30,000	円
教科書代・書籍代	2,000	円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	5,000	円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0	円
■その他、補足等:		

■留学先で費やした生活費：	
家賃	0 円
食費	30,000 円
交通費	6,000 円
娯楽費	10,000 円
■その他、補足等：	
■プログラム参加のための奨学金の受給有無：	
受給した。	
■奨学金の支給機関・団体名等：	
JASSO	
■受給金額(月額)：	
70,000 円	
■受給金額についての補足等：	
■奨学金をどのように見つけたか：	
大学(本部国際交流課)からの案内	

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感：
海外で活動するハードルが低くなり、自身の世界観を広げることができたという点で非常に満足している。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響：
日本従来の就職活動にとらわれずより広い選択肢の中で考えられるようになった。
■進路・就職先(就職希望先)：
公的機関、民間企業、起業
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス：
積極的に参加して自身の視野を広げてほしい。
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物：
特になし。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 9/2/2018

- 参加プログラム: 香港大学-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-HongKong.html>
- 派遣先大学: 香港大学
- プログラム期間: 8/2/2018 ~ 8/13/2018
- 東京大学での所属学部・研究科等: 工学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 4

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:
大学 4 年生の夏休みであり、来年の就職先も決まっていたため学内のプログラムに参加できる最後の機会だったから。
■参加を決めるまでの経緯:
4 年生の夏休みであり、サマープログラムに参加できるのも最後だろうと考え、得られるものの大きい(大変な)プログラムに応募しようと思って 5 月ごろに参加を決めた。また、今後の自分のキャリアにとって有意義な経験ができると考えた。香港は以前旅行で訪れたことがあり、最初は場所には魅力を感じず、別の国のプログラムにしようか迷っていた(実際には非常に魅力を感じて帰って来た)。

プログラムについて

■概要:
香港の歴史や経済、ビジネスなどについて様々な業界の方や教授から講義を受ける。また、現場を見学しに行くこともある。そして最終的にテーマを絞ってグループでフィールドワークを行い、その結果についてプレゼンテーションを行う。事前に読み込んでおくべき資料が配布されるが、膨大なので要点を押さえておく程度で良いと思われる。講義をしてくださる方は普段なかなかお目にかかれなような地位の方もおり、どなたも学生からの質問をたくさん受けてくださった。せっかくの機会なので積極性が非常に大切だと感じた。
■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:
取り組んでいない。
■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:
また、プログラム終了後に集まって遊んだり食事に行ったりして互いに仲を深めることができた。
■週末の過ごし方:
香港大の学生とともに香港内部の様々な場所に観光に行った。また、最終週は各班ともにプレゼンテーションの準備に取り組み、残りの時間で遊びに行ったり一緒に食事をしたりした。寮の中でもラウンジで遊ぶことができた。

派遣先大学の環境について

■設備:
簡易的な学生カードをもらうので、図書館や Learning Commons はそれを見せて入ることができる(書籍の貸出などはできない)。食堂は、私が滞在した時には工事中のものもあり少なかったが、カフェや軽食店も

キャンパス内にあった。Wifi はキャンパス内、寮共にあったのでネット環境は問題なかった。校舎内では eduroam も利用できた。
■サポート体制:
体調がすぐれない場合などは TA や教授に相談すれば医療センターに連れて行ってもらえる。グループ活動が多いので、生活面や精神面で問題が生じた場合にはグループリーダーや TA に相談し、彼らが教授と話し合うなどして臨機応変に対応することが多かった。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:
学生寮
■宿泊先の様子、どのように見つけたか:
東京大学、香港大学の学生共に Shun Hing College に宿泊した。香港大学に併設した宿舎(大学からは地下鉄で一駅)であり、プログラムに協賛してくださった Shun Hing Group のご厚意により無料で宿泊できた。シングルまたはツインルームで、設備にも不自由ない。各階にラウンジがあり、作業したり遊んだりできる場所がある。
■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等:
夏の香港は非常に蒸し暑く、湿度は 90%を超える日も多いので不快指数が高い。夕立が来ると少し涼しくなる。一方で室内は冷房が強く温度が低い場合が多いので羽織るものは持参した方がよい。 大学周辺は交通の便もよくレストランも多い。寮は急な坂の上にあり、スーパーやレストランは坂の下にしかない。歩いて帰ると汗が噴き出すので着替えは多めにあると便利。 交通機関はバス、地下鉄、トラムなどがあり、すべて IC カード(八達通、オクトパスという名前)で支払えて交通費は日本よりも安い。地下鉄で大抵の場所に行けるので便利。ミニバスはルートがわかる&広東語が使える人でないと難しいので、現地の学生と乗った方がよい。食事は大体どんなレストランもあるが、香港ならではのグルメ(飲茶、肉乗せご飯)が安くて美味しい。また、ファミレスのような品数の多いレストランも各地にある。日本食が恋しい場合にも、おにぎりや寿司、ラーメンなどクオリティの高いものが十分ある。
■お金の管理方法、現地の通貨事情:
香港空港で両替した。香港は市内よりも空港のレートが良いらしい。3 万円を両替したが、2 週間の滞在で余る程度だった(カード払いもしたが)。クレジットカードが使える店も多い。
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理:
治安は特に問題なかった。参加者の中にバスで IC カードを落とした人もいたが、見つかった。ただ、大通りから一本入るとまったく雰囲気が変わるような場所もあった。また、特に夜の歓楽街などでは十分に注意する必要がある。室内外の温度差のせいか体調を崩している人もいたので、温度調節は特に大事であると感じた。
■自由時間に利用した交通手段:
列車、バス
■プログラム期間中に利用したネット環境:
キャンパス Wifi

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き:	
学内の申請書、成績などを提出した。志望動機はしっかり書きましょう。	
■ビザの手続き:	
特に必要なし	
■医療関係の準備:	
(香港に限らず海外旅行時に持参している)胃薬を念のため持っていった。絆創膏は持っておいて役に立った。	
■保険関係の準備:	
学校指定の保険に加入した。	
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き:	
所属の事務室と教授に書類を提出し、承認印をもらった。	
■語学関係の準備:	
IELTS7.0、HSK5 級。渡航のために特別な準備はしなかった。グループの香港大学生は日本語を不自由なく話せる人も多いが、講義や発表、グループワークでは英語が主なので、特に聞き取りとスピーキングはできたほうが良い。ただし、思ったことを積極的に口に出して何とか伝えようとする力の方が語学力よりも大切だと感じた。	

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:	
航空費	50,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	0 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	5,000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■その他、補足等:	

■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	15,000 円
交通費	4,000 円
娯楽費	8,000 円
■その他、補足等:	

■プログラム参加のための奨学金の受給有無:	
受給した。	
■奨学金の支給機関・団体名等:	

JASSO
■受給金額(月額):
70,000 円
■受給金額についての補足等:
■奨学金をどのように見つけたか:
大学(本部国際交流課)からの案内

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:
様々な業界の方から話を聞き、自分が抱いた疑問に答えていただけたことで香港と中国の関係や今後の展望について詳しく知ることができた。また、私はグループリーダーだったのでチームでいかに成果をあげるか、メンバーがどう分担し協力すれば良いかということも考えることとなったが、これも自分にとって非常に良い経験だった。香港大学の学生とも仲良くなり、活動をともしする中で香港の文化を肌で感じることができ非常に楽しい二週間となったので非常に満足している。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:
海外で働くことにもともと興味があったが、その上で香港は非常に魅力的な場所であると感じた。また、総領事館の大使をはじめ、日本とのつながりという観点でも様々な話を伺うことができたので社会課題の共有や今後の国際協力、貿易に関して将来日本と香港で関係が深まりうると知り、今後キャリアを歩む上での知見として活かせるだろうと考えた。
■進路・就職先(就職希望先):
公的機関、経済産業省
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:
決して楽ではないけれど、非常に濃密で充実したプログラムでした。また、同じ寮で生活して参加者同士が非常に仲良くなれるので初めての海外で不安という人も問題ないと思います。言語に関しては、香港大学の参加者は日本語が話せる人も多かったですが、やはり英語を積極的に使えたほうが楽しめるように感じました。学年や専攻にかかわらず交流して学びたい、海外で積極性を身につけたいという方にぜひお勧めします。
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:
香港を知るための60章(読破はしていないが詳しいのでおすすめ)。まずは、事前に共有される資料やHPに目を通すことが非常に有用である。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 2018/08/29

- 参加プログラム: 香港大学-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-HongKong.html>
- 派遣先大学: 香港大学
- プログラム期間: 2018/08/02 ~ 2018/08/13
- 東京大学での所属学部・研究科等: 工学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 4

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:
学部最後の夏であったため。
■参加を決めるまでの経緯:
ウィンタープログラムと一緒に参加した学生に誘われたのがきっかけ。大学院入試を控えていたので参加を少し迷った。

プログラムについて

■概要:
Japan in Hong Kong をテーマにゲストレクチャーを聞いたり、企業訪問などを通して香港におけるビジネスについて学んだ。グループごとにテーマを決め、最終プレゼンテーションを行った。
■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:
文化活動
■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:
ヤムチャの文化を体験した。
■週末の過ごし方:
寮で休養していた。

派遣先大学の環境について

■設備:
ディスカッションのできるコモンズ有。食堂は工事中。wifi あり
■サポート体制:
特記事項なし。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:
学生寮
■宿泊先の様子、どのように見つけたか:
セキュリティはしっかりしていた。冷房の調節が難しかった。

■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等：
東京に比べ湿度が高い。どこに行っても冷房が強いので上着があった方が良い。交通は便利。食事も様々な地方の中華や日本食もあり、問題はなかった。
■お金の管理方法、現地の通貨事情：
日本円を香港空港で両替した。
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理：
特になし
■自由時間に利用した交通手段：
列車、バス
■プログラム期間中に利用したネット環境：
キャンパス Wifi、SIM

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き：
志望理由書→選考→渡航届（基本情報）：特別なアドバイスはないです。
■ビザの手続き：
なし
■医療関係の準備：
何も準備していません。
■保険関係の準備：
指示通りに準備すれば問題はないです。
■東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続き：
なし
■語学関係の準備：
香港は广东話なので少し勉強して行った。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用：	
航空費	50,000 円
派遣先への支払い（授業料・施設利用料など）	30,000 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料（東京大学指定のもの）	5,000 円
保険・社会保障料（留学先で必要だったもの）	0 円
■その他、補足等：	

■留学先で費やした生活費：

家賃	30,000 円
食費	10,000 円
交通費	3,000 円
娯楽費	3,000 円
■その他、補足等:	
家賃不明	

■プログラム参加のための奨学金の受給有無:	
受給した。	
■奨学金の支給機関・団体名等:	
JASSO	
■受給金額(月額):	
70,000 円	
■受給金額についての補足等:	
■奨学金をどのように見つけたか:	
大学(本部国際交流課)からの案内	

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:	
香港をただの中国の一部としか認識していなかったが、そうではないことを知ることができたのは大きな収穫だったと思う。	
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:	
物流関係の仕事への興味が増した	
■進路・就職先(就職希望先):	
民間企業、化粧品、物流	
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:	
あまり深く考えずとりあえず行ってみるくらいのテンションで良いと思う。考えすぎるとよくも悪くも視野が限られてしまう。	
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:	
特になし	

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 8/31/2018

- 参加プログラム: 香港大学-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-HongKong.html>
- 派遣先大学: 香港大学
- プログラム期間: 8/2/2018 ~ 8/13/2018
- 東京大学での所属学部・研究科等: 農学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 3

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:

もともと留学はしたいと、大学入学時に考えていた。しかし、いままで英語を実践的に使う機会があまりなかった。3 年生になり大学にも完全に慣れたこのタイミングで、また新たな刺激が欲しいと思い、参加してみることにした。

■参加を決めるまでの経緯:

まず一つ、単純に「留学」というものをしてみたかったということがあります。「留学に行って、視点が変わった!」という声は、よく聞きます。そして、留学というのは、豊富に時間のある大学生のうちしかできないことです。留学をして本当に視点が変わるかどうかはさておき、大学生のうちに留学という経験をしなかったことで、「留学したら何を感じるのか」を知らぬまま社会人になって後悔したくなかったのです。単純な動機ではありますが、留学への一歩を踏み出させるには大きな動機でした。もう一つは、「実践的な英語力を高めたかった」から。

プログラムについて

■概要:

プログラムの流れとしては、前半は、香港と日本の関係性の一端を担っている企業を多く訪問したり、香港の歴史についての授業を聞いたりしました。前香港財政長官である曾俊華さんをはじめとする、多くの高名な方々から、直接話を聞くだけでなく、直接質問をしたりディスカッションをしたりと、とても貴重な経験となりました。後半は、グループで決めたテーマに応じてインタビューや現地調査などのフィールドワークを行い、最終的にはそれをまとめたプレゼンテーションを行いました。

■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:

取り組んでいない。

■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:

プログラムだけで十分充実しており、他の活動をする余暇がなかった。

■週末の過ごし方:

香港大学の学生さんがよく遊びに行くスポットに連れて行ったりもらった。「あっ! 現地の大学生はこう遊ぶんだ!」と感じられて、普段の海外旅行でする観光とは異なる面白さがあった。たくさんインスタ映えした。

派遣先大学の環境について

■設備:
図書館も充実してましたが、なによりも学習スペースがとても広く用意されていました。ここで、基本的には議論をしていました。wifi の繋がりも良好です。食堂は美味しいと感じましたが、毎日食べてると飽きると香港大学の学生は仰っていました。どこの大学生も感じることは同じだと思いました。
■サポート体制:
香港大学の学生が、日本語を喋れる人が多いので、語学面ではとても楽でした。 ですが、逆に自分の英語力のなさゆえに日本語を喋ってもらっている感じもして、申し訳なくも感じました。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:
学生寮
■宿泊先の様子、どのように見つけたか:
プログラムのご厚意で寮を用意していただきました。無料でした。ありがとうございました。

■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等:
とにかく湿度が高いです。メガネをかけてるひとは、すぐに曇ってしまうので注意です。注意しようにも曇ってしまうのでどうしようもないですが。そして、暑いです。寮に到達するためには長い坂を登らなくては行けないので、とても疲れてしまいます。しかし、プログラムの後半にはその長い坂に愛着が湧くようになりました。交通機関は、香港では発達しています。どこに行くにも苦労しないと思います。しかも安いです。大体は香港大学の方々が乗り方を教えてくださるので、安心です。食事も、毎回香港大学の方に連れて行ってもらいました。ですが、事前に行きたい食事スポットなどを調べておくと、より楽しくなる気もします。毎回食事スポットを香港大学の人が考えていて、少し大変そうだったというの也有ります。
■お金の管理方法、現地の通貨事情:
5万円程両替して、現地の通貨として使いました。余りました。クレジットカードを持っていない人は、作ることをお勧めします。現地では、オクトパスカードという、suica をより万能にしたようなカードで基本的にどこでも支払いが可能でした。便利！
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理:
治安は悪くないと思います。虫に刺されて腫れました。屋内と屋外の寒暖差が激しいので、そういうのが苦手な人は注意が必要です。
■自由時間に利用した交通手段:
列車、バス、トラム
■プログラム期間中に利用したネット環境:
キャンパス Wifi

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き:
常に Go Global HP に目を光らせてました。あとは、学部の窓口で質問をたくさんしました。基本的に、それに従えば問題ないと思います。

■ビザの手続き:
香港は VISA は不要でした。
■医療関係の準備:
特にないです。
■保険関係の準備:
付帯海学保険しか入っていません。
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き:
海外旅行届?を提出しました。
■語学関係の準備:
今まで英会話系のスキルを全く鍛えていなかったのですが、そうして臨んだら話せなさすぎて悲しくなりました。ある程度鍛えておくと楽しいと思います。準備と言えるかわかりませんが、出発の 2 日前まで別の英語圏の国に旅行していました。今まで英会話をほとんどしてこなかった自分にとっては、ある程度は英語にたじろがないようになりました。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:	
航空費	34,220 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	30,000 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	5,810 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■その他、補足等:	

■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	25,000 円
交通費	3,000 円
娯楽費	10,000 円
■その他、補足等:	

■プログラム参加のための奨学金の受給有無:	
受給した。	
■奨学金の支給機関・団体名等:	
JASSO	
■受給金額(月額):	

70,000 円
■ 受給金額についての補足等:
■ 奨学金をどのように見つけたか:
大学(本部国際交流課)からの案内

プログラムを振り返って

■ プログラムに参加したことの意義、その他所感:

1. 自身の英語力について、2. 香港という1都市を深く知ることの面白さ、3. 異国の人と話すことの楽しさ簡単にまとめると、以上3つが主な感じたことです。それぞれについて詳しく書いていきます。1. 自身の英語力について「実践的な英語力を高める」という目標を掲げ、このプログラムに臨みました。これが達成できたか、と聞かれれば、答えは否です。しかしながら、自身の英語力のなさを痛感するとともに、今後のモチベーション向上への大きな契機となりました。英語で文章を書くことに関しては、東大英語を突破したレベルには書けるはずなのに、話すとなると全く話せなくなってしまう。この原因は、「日本語を英語に直すのに時間がかかってしまうから」と、この留学を通して初めて気付きました。英語で議論が繰り広げられる中、自分も発言をしようとするが、日本語で考えたことを英語に変換している間に話題が次に進んでしまい、発言できなくなってしまう。議論が英語から日本語になると同時に、発言できるようになる。また、多くの高名な方々からお話を伺った際に、英語で質問しようとするも、日本語でしたい質問をうまく英語に翻訳出来ず、質問意図を正しく伝えられない気がして質問をためらってしまう。質問をしようにも。もし講義中に話していたが自分が聞き取れなかったことだったら申し訳ない、という考えが頭をよぎるせいで、質問をするのをためらってしまう。このように、自分の英語力のなさを痛感するタイミングが多くありました。2. 香港という1都市を深く知ることの面白さもともと、旅行は好きでした。しかし、「もっとこの土地について深く知っていれば、もっと旅行が楽しいものになるんだろうな?」と感じることはありました。今回、「香港」という都市に対する執着はないままに、プログラムに参加しました。香港に対して完全に無知であり、どんな都市か全く知らない、そんな状態で日本から飛行機で4時間、香港に着きました。しかし、香港に住む多くの人々の話や、香港大学の人との会話を通して、香港についてどんどん知ることができました。そして、香港という市場だからことの特徴を知っていくに伴って、香港の街を歩く視点が変わっていきました。「留学」ではなく、単に「旅行」という観点で見ても、潤いのある時間でした。そして、香港が大好きになりました。「学ぶこと」の意義を久しぶりに感じました。「知ること」の楽しさを久しぶりに感じました。このような形の「学び」、おそらく大学生のうちしかできないであろうこの「学び」を、社会人になるまでの間、たくさん積んでいきたいと思います。3. 異国の人と話すことの楽しさ私は、「一生を日本で過ごせばいい」と思って生きていました。しかし、今回、初めて異国の人と長い時間を過ごし、深く話すことができました。そして、異国の人と話すことの楽しさを知るとともに、海外のさまざまな国を転々として生活するのも悪くないな、と思いました。異国の人と話してみてもなぜ楽しいのか?それは、確実に違う視座からの意見を得られるからです。たとえば、食べたラーメン1つをとっても、香港人と日本人で大きく感想が異なりました。これは、単なる偶然ではなく、もともと生まれ育った地域の料理の味によって、その人の味覚が形成されるからです。また、「香港の人は5人に1人が年間に訪日しているが、日本人で香港を訪れている人の割合が高くない」ことに疑問に思い、香港在住の日本人の方に質問したところ、「香港人は国内だけで満足できないが、日本人は国内で十分満足出来る環境だから。」ということを知り、ハッとしました。そんなことを聞くまで思いもしませんでした。

した。そして、日本という環境がいかに恵まれているかを痛感し、香港だけでなく日本も大好きになりました。他にも書ききれないほど、新たな考え方をふと感じるタイミングがあり、それを感じる瞬間の楽しさは、今まで経験したことのない楽しさでした。今までの私は、「日本から」の視点しか持っていなかったし、その視点が全世界に共通しているものだとは勘違いしていました。今回のプログラムを通して、日本という枠組みの中にずっと閉じこもってはいは勿体無い、もっと世界と交流していきたい、と感じるようになりました。

■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:

キャリアに与えた影響は、正直そこまでないです。ただ、経験として非常に意義のある経験だったと思います。

■進路・就職先(就職希望先):

民間企業、まだボヤッと考えている程度ですが、弁理士の資格を取りたいです。

■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:

絶対に参加すべきです。参加すればわかります。

■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:

英語力に自信がないひとは、事前に配られる大量の資料を流し読みしておくの良いと思います。それにより、次にある講義が大体どのような内容かの検討がつくため、リスニング能力に自信がなくても、ある程度ついて行きやすくなると思います。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 8/24/2018

- 参加プログラム: 香港大学-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-HongKong.html>
- 派遣先大学: 香港大学
- プログラム期間: 8/2/2018 ~ 8/13/2018
- 東京大学での所属学部・研究科等: 経済学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 4

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:

就職活動を終え、時間があつたため。また、社会人になってからはまとまった時間をとって海外経験をする時間も限られると思ったため。

■参加を決めるまでの経緯:

就職先で英語力が重要となるため、まとまった時間をとって英語を使う機会を設けたいと思っていました。インターンなどにも参加しようとしていたこと、自分の誕生日がプログラム中にあることなどから少し迷いもしましたが、参加してよかったと思います。

プログラムについて

■概要:

香港で活躍する人々をゲストに招いたレクチャーと、企業を尋ねるフィールドワークがあり、その結果をプレゼンテーションにまとめました。それぞれのレクチャーの前にはリーディング課題があり、読んで質問を考えてくるように促されました。レクチャーやフィールドワークを通じて何かを発見し、プレゼンにまとめるのが楽しかったです。

■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:

取り組んでいない。

■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:

時間が2週間と短かったため。

■週末の過ごし方:

現地の学生とともに観光地に行ったり、プレゼンテーションの準備をしたりすることで時間を過ごしました。

派遣先大学の環境について

■設備:

基本的には大学と寮をバスで往復します。大学の食堂も利用しましたが、おいしくて使いやすいです。大学・寮ともにWifiがあり、ネット環境にも困りませんでした。

■サポート体制:

香港大学側にTAが2人ついていて、何かと相談に乗ってもらうことができました。学習においても、先生方にコンサルテーションを受けることができたのが良かったです。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:
学生寮
■宿泊先の様子、どのように見つけたか:
全員が同じ寮に泊まりました。2人1部屋で、シャワーとトイレは共同でした。部屋にはベッドと机のみがありました。

■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等:
とても蒸し暑く、外を歩くととにかく汗をかきます。ただ部屋の中は冷房がきいているので、上着は必須です。交通機関としては、バスも地下鉄も便利で、どこに行くにもすぐ着くことができました。食事もおいしく、基本的にとっても生活しやすかったです。
■お金の管理方法、現地の通貨事情:
2万円だけ空港で両替し、足りなくなった分は現地のATMで下ろしました。ただ、友人はキャッシングがうまくできず困っていたので両替しておくのが安心かもしれません。
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理:
治安はとても良いようです。医療関係では、一応大学にクリニックがありますが、長期的なものになるとやはり日本の病院にしっかりとかかる必要があるので、行く前にできるだけ治療は済ませておくことが大事です。
■自由時間に利用した交通手段:
列車、バス
■プログラム期間中に利用したネット環境:
キャンパス Wifi、レンタルしたルーター

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き:
参加前には志望動機や語学能力、自己アピールなどについての応募書類を書きました。志望動機には、自分のバックグラウンドを踏まえて、どのようにこのプログラムを生かせるか、ということを考えて書きました。参加決定後は、奨学金手続き書類と渡航情報届がありました。渡航情報届は様々な手続き書類がまとまっていてわかりやすかったです。
■ビザの手続き:
なし
■医療関係の準備:
風邪薬のみ持って行きました。途中足に痛みがあったため、香港大学の学生につれられてドラッグストアで湿布を買いました。
■保険関係の準備:
「付帯海学」への加入が義務付けられており、かつ案内も親切だったので特に困ることなく準備ができました。
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き:
試験終了後だったので特に手続きは必要ありませんでした。

■語学関係の準備:

一年間交換留学に参加していたので、英語力にある程度の自信はありました。ただ、留学前数ヶ月は海外ドラマなどを見ていて、そこで使われていた表現などを積極的に使えたのはよかったと思います。

費用・奨学金に関すること**■参加するために要した費用:**

航空費	56,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	30,000 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	2,000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円

■その他、補足等:**■留学先で費やした生活費:**

家賃	0 円
食費	20,000 円
交通費	10,000 円
娯楽費	10,000 円

■その他、補足等:

寄付をいただいている寮への宿泊のため家賃は 0

■プログラム参加のための奨学金の受給有無:

受給した。

■奨学金の支給機関・団体名等:

JASSO

■受給金額(月額):

70,000 円

■受給金額についての補足等:

渡航支援金として 160000 円をいただきました。

■奨学金をどのように見つけたか:

大学(本部国際交流課)からの案内

プログラムを振り返って**■プログラムに参加したことの意義、その他所感:**

英語による議論をする能力に一定の成果があったと思います。またリーダーシップをとってプロジェクトを進める経験も、今後大いに生きるものだと思います。

■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:

自分が就職する金融業界の方に多く会うことができ、将来のキャリア観が深まりました。

■進路・就職先(就職希望先):

民間企業、証券会社
■ 今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:
短期でどれだけのものを得られるかは持っている目的とモチベーション次第だと思うので、①しっかりと目的意識をもつ、②プログラム中は活動的に動く、ということを意識すると良いと思います！
■ 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:
特になし

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 2018/08/27

- 参加プログラム: 香港大学-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-HongKong.html>
- 派遣先大学: 香港大学
- プログラム期間: 2018/08/02 ~ 2018/08/13
- 東京大学での所属学部・研究科等: 教養学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 1

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:

以前から海外へのあこがれが強く、高校時代にも(短期ではありましたが)海外へ行ったことがあり、比較的自由が利く大学生、特に駒場に居るうちに積極的に海外経験を積もうと考えていたところ、ちょうど今回のサマープログラムの説明会の存在を知り、そこで伺ったお話が大変興味深いものであったためです。

■参加を決めるまでの経緯:

入学前から、夏休みには海外に行くことを決めていましたが、このプログラムに参加することに決めたのは本当に偶然でした。四月にキャンパス内で偶然、留学生と一緒にドッジビーで遊ぶイベントの告知を発見し、それに関するウェブサイトを訪れた所、第二回サマープログラムの説明会の存在を知った、というのが始まりです。説明会に参加し、清華大学と HKU のプログラムで本当に迷いましたが、一度も行ったことが無かった香港に惹かれたことや説明会で聞いたプログラムの雰囲気などから HKU に気持ちが傾き、締め切り直前まで第一希望をどちらにするか悩み続けた末、最後には直感でこちらを選ばせていただきました(おかげで、手続きがかなりギリギリになってしまいました…)。参加するかどうかについて迷ったことはありませんでしたが、前述のように二つのプログラムで大変迷いました。今振り返ると、あとで後悔しないように自分の直感を信じたことは正しかったのかなと思います。

プログラムについて

■概要:

2週間のプログラムのうち、前半は組まれたスケジュールに沿って、香港ビジネス界で活躍する香港の方、香港で活躍する日本人の方のお話を聞いたり、香港の日系企業を訪問しました。また、香港在住の東大OBの方々(淡青会)との交流もありました。これらについては、事前資料が配られるので、それらを読んでおくにより深い理解や鋭い質問につながります(とはいっても、ほとんどが英語の資料であり、分量も多いので多少大変かもしれません…(笑))。毎日、現地解散なので寮へ帰る途中にいろいろ寄り道ができます! 後半は、最終日に予定されていたグループごとのプレゼンに向けて、各グループでテーマを決め、それに関するお話を伺えそうな方々に自らでアポを取ってインタビューに行き、自分たちで調べた資料と組み合わせながら、準備していききました。基本的に土曜日・日曜日は休みで、みんなで(グループごとに)遊びに行くことが多いです。この時も、HKU の学生が遊べる所・買い物できる所など様々な場所に連れて行ってくれました。もちろん、HKU の学生に頼らずに、目的地を自分たちで決めることも可能ですし、頼めば気軽に一緒に行ってくれたりもします(笑)。

■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:

取り組んでいない。

■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由：
前半後半共に比較的忙しく、空いた時間には他のメンバーと交流する機会が多く、またとても楽しい時間であったため、他に何かをするという発想には至らなかったため。
■週末の過ごし方：
プログラムメンバーは 5～6 人のグループに分けられるので、そのメンバーと共に他のグループメンバーも交えながら、HKU の学生に香港を案内してもらいました。

派遣先大学の環境について

■設備：
HKU の食堂は誰にでも解放されています（お昼時は地元の方々も多くみられました）。学内・寮内ともに Wi-Fi を使用できます。また、プログラム初日にネームカードとともに配布されるパスカードを使用すれば、大学の図書館を利用できます（ただし、ゲスト扱いなので持ち出しはできません。必要な場合は HKU の学生に頼めます）。
■サポート体制：
大学生なので、多くの事は自分ですることになりますが、同じ部屋の方や他の学生たちとの助け合いも大事になります。困ったことがあれば、同行している先生方や TA が気軽に相談に乗ってくれます。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類：
学生寮
■宿泊先の様子、どのように見つけたか：
このプログラムに参加する学生は、東大の学生・香港大学の学生を問わずに、香港大学の Shunghing college に滞在することになっています。1 人または 2 人で一部屋になります。基本的に到着までわかりませんが、TA として参加する学生が事前に希望を聞いたり確認してくれたりします。

■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等：
突然の夕立があります。かなり狭い範囲で集中的に降ります。香港は MTR と呼ばれる地下鉄が発展していて、大学周辺や寮、中心部までの移動はかなり便利です。また、2 階建てバスや 2 階建て路面電車（トラム）も便利です。これらの全ての交通機関で OCTOPUS と呼ばれるカード（Suica のようなもの）を使用できます。食事に関しては、中国・日本・ヨーロッパなど幅広いものが食べられます。現地をよく知る HKU の学生が案内してくれるので、安くておいしい店を中心に楽しめます。
■お金の管理方法、現地の通貨事情：
前述の OCTOPUS カードは、使える店舗が多く大変便利なカードです。クレジットカードも対応する店は多く、便利です。ただし、現金での買い物でも全く不便はなく、お土産店などは現金のみの店も多いため、現金の携帯は必要です。
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理：
建物の外は気温・湿度がともに高い（気温は 32～33 度ですが湿度は大変高く、96%という日もありました）のに対して、建物内はどこも必ず冷房がガンガン効いています。上着があっても良いくらいです。治安に関しては、特に問題はなかったです。

■自由時間に利用した交通手段:
列車、バス、トラム(2階建て路面電車)
■プログラム期間中に利用したネット環境:
キャンパス Wifi、レンタルしたルーター

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き:
事前にメールにて送付されるチェックリストを参照しながら、わからないことがあれば(出発前の)オリエンテーションで知り合った仲間に尋ねながら提出しました。基本的にチェックリストに従っていれば問題はありませんが、「各自で学部相談すること」とあるものについては早めの確認をお勧めします。
■ビザの手続き:
2週間という短い滞在だったため、ビザ取得の必要がありませんでした。
■医療関係の準備:
個人的に腹痛を起こしやすいため、それについての薬を中心に持っていきました。建物内外での寒暖差が激しく(建物内はどこも冷房がかなり効いています)、風邪をひいてしまう人も見られました。虫よけや日焼け止め(帽子等)もあると重宝すると思われます。
■保険関係の準備:
教養学部前期(1・2年生)の場合は大学側から OSSMA の加入が義務づけられます。また、プログラム参加者は「付帯海学」と呼ばれる保険に加入することになりますが、学校側に提出した書類をもとに提携した保険会社が資料を送ってきてくれるようなので、煩雑な手続きは必要ありません。
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き:
事前に、駒場のアドミニストレーション棟に確認に行ったところ、今回のプログラムは単位が出ず、日程が試験等と被ることもなかったため、特に何もしていません。
■語学関係の準備:
HKU のプログラム中は、(年によってゲストが異なるそうですが)レクチャーについては 7 割が英語・3 割が日本語といった感じです。現地での生活については、HKU 側の参加者は日本語が大変上手で、日本語も多々見られました。日中英いずれも使用できます。広東語については、使えたら大変便利であると思いますが、使えなくても問題はありません。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:	
航空費	56,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	30,000 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	10,000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■その他、補足等:	

■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	20,000 円
交通費	10,000 円
娯楽費	20,000 円
■その他、補足等:	
香港では、電子マネーを使用できる店舗が多く、食費、交通費、娯楽費のそれぞれについては記憶が確かではありませんが、必要経費以外の滞在費として計 5~6 万円ほど使用しました。	

■プログラム参加のための奨学金の受給有無:
受給した。
■奨学金の支給機関・団体名等:
JASSO
■受給金額(月額):
70,000 円
■受給金額についての補足等:
■奨学金をどのように見つけたか:
大学(本部国際交流課)からの案内

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:
前述のように、今回のプログラムでは普段では絶対にお会いできないような方にお会いし、香港を中国(main land)へのゲートウェイとして、東アジアの拠点として等多様な面から見ることができました。渡航前、香港に関しては「イギリスから中国に返還され、現在では一国二制度の下にある」といった程度の事しか知らなかったが、2週間の滞在の間にレクチャーやフィールドワークを通じて、多様なビジネス拠点としての香港・現地に住む人にとっての香港など多面的に向き合えました。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:
以前から、将来は海外で働きたいという漠然としたイメージは持っていましたが、淡青会での交流や実際に香港で働く日本の方にお話を伺うことで、1年生なりに多少具体的なビジョンを抱くようになったとともに、改めて将来は香港を含めた海外で働きたいという自分の意志を確認できたと思います。
■進路・就職先(就職希望先):
公的機関
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:
東大のサマープログラムは学年・学部の壁を越えて学部生だけでなく院生までを含めた様々な人との交流があります。もちろん、プログラムに参加することで得られる経験は他には代えがたいものですが、それらを共に経験する仲間も同じように大切なものです。実際に、東大の学生・HKU の学生を問わずに帰国後も Facebook や LINE 等でのつながりは続いています。また、海外に行くということに対して積極的な人・抵

抗がある人等様々だとは思いますが、大学生特に駒場に居るうちが一番自由なので最も行きやすいタイミングだと思います。日本を離陸するとき現地に着陸した時のドキドキは何回経験しても飽きることはないですし、日本へ帰国した時の寂しさも経験しないときがありません。東大のプログラムは奨学金という支援が得られるうえに、行程もしっかりしていると思うので、貴重な夏休みを最高に楽しいものにするにはぴったりだと思います。躊躇する暇があったら、とりあえず覚悟していってみる、というのも選択肢の一つだと思います。

■準備段階やプログラム参加中に役に立ったウェブサイト、出版物:

本部国際交流課からメールにて送付されるチェックリストは大変参考になりましたし、幾度に渡る窓口やメールでの質問にも丁寧に答えていただき、大変助かりました。このプログラムに関しては、現地の観光ガイドブックは必要ないかもしれません。HKUの学生が、それぞれのとおき場所に連れて行ってくれます(笑)。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 2018/09/08

■参加プログラム: 香港大学-東京大学合同サマープログラム

■プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-HongKong.html>

■派遣先大学: 香港大学

■プログラム期間: 2018/08/02 ~ 2018/08/13

■東京大学での所属学部・研究科等: 教養学部

■学年(プログラム開始時): 学部 1

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:

1 年生のうちから海外で見識を広めたいと思ったから

■参加を決めるまでの経緯:

上クラの方に勧めて頂きました。国際交流ウィークに参加した際に応募を決めました。8 月末にサークルの合宿があったので日程が合う範囲で一番面白そうだったのが香港大のプログラムだったのでこれに応募することにしました。

プログラムについて

■概要:

香港で活躍されている方々のお話を聞くことができたのはとても貴重な経験でした。特に前財務局長の方のお話は端々から知性を感じてさすがだな、と思いました。

■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:

企業訪問

■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:

プログラムの最後のプレゼンテーションに向けて日系企業を訪問しました。

■週末の過ごし方:

グループのメンバーと買い物などをした。

派遣先大学の環境について

■設備:

校舎がとてもキレイ。図書館、ラーニングコモンズ、Wi-Fi 環境などが整備されていて東大よりも居心地が良かったです。笑

■サポート体制:

特になし

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:

学生寮

■宿泊先の様子、どのように見つけたか:

キャンパスからは電車一駅ぶんぐらい離れています。坂の上にあって返るのが大変です。二人部屋でベッ

ドと机、クローゼットがそれぞれにつき1つあります。フリーwifi があり便利でした。

■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等:

じめじめしていて汗をかきます。交通費はとても安いです。食事に関してはエスニックに近いものがあるので苦手な人は日本食を持って行くといと思います。

■お金の管理方法、現地の通貨事情:

3 万円分両替してデビットカードと併せて使っていました。

■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理:

一人では出歩かない、確実に食べられそうなものだけを無理せず食べる。

■自由時間に利用した交通手段:

タクシー、列車、バス

■プログラム期間中に利用したネット環境:

キャンパス Wifi

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き:

教養学部提出するものや本郷の Go Global に提出するものなど期限の異なる多くの種類の書類を提出する必要があるののでしっかりリマインダーなどで管理するのがよいと思います。

■ビザの手続き:

必要ありませんでした。

■医療関係の準備:

特にしていません。風邪薬と胃腸薬だけ持って行きました。

■保険関係の準備:

申請してから被保険者証が送られるまでに時間がかかるのですぐに手続きするのがよいです。

■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き:

教務課に渡航届を提出しました。

■語学関係の準備:

TLP フランス語履修できる程度の英語力だったので特別なことは行っていません。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:

航空費	50,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	30,000 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	8,000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円

■その他、補足等:

■留学先で費やした生活費：	
家賃	0 円
食費	20,000 円
交通費	10,000 円
娯楽費	10,000 円
■その他、補足等：	
寮に滞在していたので家賃は上の「派遣先への支払い」に含まれています。	

■プログラム参加のための奨学金の受給有無：
受給しなかった。
■奨学金の支給機関・団体名等：
■受給金額(月額)：
円
■受給金額についての補足等：
■奨学金をどのように見つけたか：

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感：
人生で初めての海外でしたがとても良い経験になりました。普段旅行で訪れるだけでは会うことが出来ないような人、場所を訪問することができたのは誇張抜きで一生忘れられない経験だと思います。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響：
東大 OB の方ともお話しする機会があり、起業も選択肢の一つだと思ったことが大きかったです。
■進路・就職先(就職希望先)：
公的機関、国家公務員。経済産業省に入りたいです。
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス：
案ずるより産むが易し！まずは挑戦してみてください！応援してます！
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物：
特にありません。留学経験のある友人の助言が一番役に立ちました。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 2018/08/27

- 参加プログラム: 香港大学-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-HongKong.html>
- 派遣先大学: 香港大学
- プログラム期間: 2018/08/02 ~ 2018/08/13
- 東京大学での所属学部・研究科等: 教養学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 1

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:
将来長期留学を考えているので、はやいうちに短期の留学をしておきたくて、一年の夏にした。
■参加を決めるまでの経緯:
高校のときから大学一年の夏に短期留学しようと思っていました。

プログラムについて

■概要:
事前にリーディングの課題がありました。レクチャーは著名な方が話してくれました。また、フィールドワークは街にくりだせて楽しかったです。
■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:
取り組んでいない。
■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:
二週間と短期だったから。
■週末の過ごし方:
街を散策するなど観光しました。

派遣先大学の環境について

■設備:
香港大学のラーニングコモンズは海が見えてカッコよかったです。設備は全体的に充実していました。
■サポート体制:
非常に充実していました。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:
学生寮
■宿泊先の様子、どのように見つけたか:
香港側が用意してくださった寮でした。簡素でしたが、新しく綺麗でした。
■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等:
香港は気候や公共交通機関、大学周辺は東京のような感じでした。食事は特に困らないと思います。

■お金の管理方法、現地の通貨事情:
現金とクレジットカードを併用しました。
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理:
治安はよかったと思います。また、冷房が強いので、気をつけた方がいいと思います。
■自由時間に利用した交通手段:
列車、Uber
■プログラム期間中に利用したネット環境:
キャンパス Wifi

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き:
志望理由書や英語のスコアなど大学の指示通りに準備しました。
■ビザの手続き:
必要なかったです。
■医療関係の準備:
普段使っている風邪薬を持って行きました。
■保険関係の準備:
大学指定のものとクレジットカードの保険に入りました。
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き:
教務課に相談したら問題なかったです。
■語学関係の準備:
2年前に英検1級をとっていましたが、最近では英語力が下がっていたので、直近は留学生の友達と英語で話すようにしました。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:	
航空費	60,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	30,000 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	5,000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	5,000 円
■その他、補足等:	
■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	30,000 円
交通費	5,000 円
娯楽費	10,000 円

■その他、補足等：
■プログラム参加のための奨学金の受給有無：
受給した。
■奨学金の支給機関・団体名等：
東京大学
■受給金額(月額)：
70,000 円
■受給金額についての補足等：
■奨学金をどのように見つけたか：
大学(本部国際交流課)からの案内

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感：
海外での学びや生活についてのイメージが掴めたこと。はじめての海外滞在だったが、行ってみてはじめてわかることや感じるがあったので、行ってよかった。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響：
海外志向が強まりました。
■進路・就職先(就職希望先)：
民間企業
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス：
英語に自信なくてもなんとかなるので、参加した方がいいと思います。
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物：
東大の Go Global

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 8/26/2018

■参加プログラム: 香港大学-東京大学合同サマープログラム

■プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-HongKong.html>

■派遣先大学: 香港大学

■プログラム期間: 8/2/2018 ~ 8/13/2018

■東京大学での所属学部・研究科等: 教養学部

■学年(プログラム開始時): 学部 1

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:

1 年生のうちに海外経験を積もうと思っていたから。また、本気で取り組もうと思っている楽器の練習に支障の少ない短期のプログラムが見つかったから。

■参加を決めるまでの経緯:

1 年生の夏にはどこか海外に行つて経験を積みたいという思いから、5 月ごろ参加を決めました。

プログラムについて

■概要:

平日は某日本企業の VIP や領事館の方などから、香港における日本企業の活動の様子などのお話を伺いました。予習復習は、その日の朝やお昼、翌朝などに生徒が発言する形式で行いました。フィールドワークでは、グループ単位で調べたい企業の方にインタビューさせていただいたり、実際に店舗を伺ったりしました。

■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:

取り組んでいない。

■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:

学習・研究以外はグループで香港市内観光などをしていたため、ボランティアなどには参加しなかった。

■週末の過ごし方:

週末は、主にグループで行動しました。香港市内や別荘地、ピークなどに行き、夜景を見るなどして香港を満喫しました。

派遣先大学の環境について

■設備:

図書館は、おしゃれな椅子や机が図書館とは思えないほどおしゃれに配置してありました。グループで活動するときには、図書館内の防音室を使いました。館内には壁がタッチパネルになっている場所もあって、香港の先端技術などを楽しめました。食堂は、いつも混雑していた気がします。料理は鉄板焼きやご飯の上にお肉を乗せたものなどを、その場で調理したあつあつのまま頂きました。

■サポート体制:

特になし

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:

学生寮

■宿泊先の様子、どのように見つけたか:

宿泊先は、香港大学の学生寮であるシュンヒンカレッジでした(プログラム参加者全員が宿泊することになっていました)。同じプログラムに参加している香港大学の学生と同室で寝泊まりしました。ラウンジ・キッチンやシャワールーム、トイレ、洗濯機などは共用でした。冷房がとても強かったですが、それ以外は快適でした!

■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等:

日本より蒸し暑い気候でした。湿度が 100% 近く、気温が 30 度前後なので、外にいただけで肌がベタベタしました。また日差しも強く、雨が降りやすいそうなので、日傘兼用の折り畳み傘などがあると便利だと思います。交通機関は、普通のバスより安いミニバスや、電車をよく使いました。香港の交通機関はすべて、オクトパスカードという PASMO のようなカードで使用可能でした。このカードはコンビニや飲食店、お土産屋さんなど基本どのお店でも使えるそうで、とても便利でした。香港ではグループ行動がほとんどで、食事の際も割り勘だったので、オクトパスカードではなく現金で支払いました。

■お金の管理方法、現地の通貨事情:

お金は使う分を日本で換金して、スーツケースと手荷物に分けて持っていました。香港に着いてから、オクトパスカードを作りました。

■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理:

パスポートを紛失する、または盗まれることが怖かったので、パスポートのコピーを用意して行きました。結果的には何も盗まれませんでした、、、^^

■自由時間に利用した交通手段:

タクシー、列車、バス、ミニバス、フェリー

■プログラム期間中に利用したネット環境:

キャンパス Wifi、シュンヒンカレッジの Wi-Fi

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き:

海外旅行届など、大学の窓口で直接届けに行くものやメールで提出するものなどがあつた。また全員が加入する保険もあつたが、すべて大学が作成したリストに期限や提出先などがまとめられていたので、提出の方法など分かりやすかったです。私は出発 2 日前まで手続きが終わらず、とても焦りました。テスト期間などもかぶってくると思うので、手続きは早めに進めるといいです。

■ビザの手続き:

特になし

■医療関係の準備:

持病の薬などは用意しました。

■保険関係の準備:

保険関係も準備が遅れてしまっていたので、早めに準備をしてください。

■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き:
私にとって単位などの関係ない留学だったので、学部の窓口には旅行届のようなものを提出しただけでした。
■語学関係の準備:
出発前は期末試験やレポートの作成に追われていたので、英語の勉強はほとんどしませんでした。したことといえば、プログラムの課題の英文を少し読むくらいです。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:	
航空費	56,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	30,000 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	5,550 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■その他、補足等:	
■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	3,000 円
交通費	8,000 円
娯楽費	5,000 円
■その他、補足等:	
■プログラム参加のための奨学金の受給有無:	
受給しなかった。	
■奨学金の支給機関・団体名等:	
■受給金額(月額):	
円	
■受給金額についての補足等:	
■奨学金をどのように見つけたか:	

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:
このプログラムを通して、グループワークの取り組み方やプレゼンテーションのまとめ方などを学びました。とくに、グループで自分が最年少で知的レベルも一番低かったのですが、グループの方々が頭の切れ

る方ばかりで、インタビューの際などの質問の方法など、たくさん得るものがありました。また、休日グループで行動するとき、常にグループの誰かと話していたので、もともと少し内向的だった私でも、話すことが好きになりました。このように、具体的に挙げるときりのないほど多くを得ることができました。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:
商業などに焦点を当てたプログラムで、私の進みたい進路の分野とは違ったので、講義などから就職に関する新たな考えを得ることはありませんでした。しかし、グループ内に既に就職先の決まった人やインターンをしている人がいて、二人と話をすることでインターンへの参加の意欲が起きました。
■進路・就職先(就職希望先):
公的機関、非営利団体、民間企業、NGO
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:
常に何かを得ようという気持ちで参加してみてください！学ぶことが多くて楽しいと思います！
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:
特になし

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 2018/08/24

- 参加プログラム: 香港大学-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-HongKong.html>
- 派遣先大学: 香港大学
- プログラム期間: 2018/08/02 ~ 2018/08/13
- 東京大学での所属学部・研究科等: 教養学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 1

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:
テスト終了後帰省前に参加できる日程だったため
■参加を決めるまでの経緯:
元々留学には興味が無かったのですが、留学説明会に参加したときに短期留学に行ってみたいと思い始めました。

プログラムについて

■概要:
前半は講義を聞くことが中心で、後半はグループごとのプレゼンに向けてフィールドワークや話し合いを進めていきました。講義の事前資料がありますが、プログラム中に読む時間はほとんどないと考えた方が良いでしょうと思います。
■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:
取り組んでいない。
■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:
短期間のプログラムだったため、日程に組み込まれていないものに取り組む機会は少なかったです。
■週末の過ごし方:
香港大の学生さんたちが観光に連れて行ってくれました。

派遣先大学の環境について

■設備:
図書館にはソファがたくさんあります。Wifi はキャンパス内でも寮でも使えたため不自由することはありませんでした。
■サポート体制:
TA の香港大の学生さんたちや、先生方にとってもお世話になりました。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:
学生寮
■宿泊先の様子、どのように見つけたか:
大学の寮で現地の学生とルームシェアでした。学生1人ひとりにベッドや机、棚が割り当てられていて、2

人部屋は広がったです。
■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等：
湿気が多く蒸し暑い反面、室内は冷房が効いていて寒いです。移動には MTR、ミニバス、トラムを使用しました。交通機関や食事、観光など、香港大の学生さんたちが親切に面倒をみてくれました。
■お金の管理方法、現地の通貨事情：
多めにしようと思い、現金で10万円ほど持って行きました。広東語が全くわからな買ったので、お店で買い物をするときには MTR(地下鉄)のオクトパスカードをなるべく使うようにしていました。
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理：
自分の体力に合わせて休みを取っておくべきだと思います。観光に行くことや集まって遊ぶことも多いですが、夜更かしのしすぎには注意した方が良いかと思います。
■自由時間に利用した交通手段：
列車、バス
■プログラム期間中に利用したネット環境：
キャンパス Wifi

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き：
インターネットで提出するものと紙媒体で提出するものがあり、国際交流課に何度か質問に行きました。滞在する場所の情報なども記入する欄があり、記入に戸惑いました。
■ビザの手続き：
ビザは必要ありませんでした。
■医療関係の準備：
室内と室外の気温差が大きいです。香港は日本よりも湿気が多く暑い上に冷房がものすごく効いています。体調を崩してしまわないように必ず上着を持つほか、女の子は膝掛けなどがあると良かったと思います。
■保険関係の準備：
学校で指定れたものに申し込みました。
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き：
1年生は単位がもらえないので、特に手続きは必要ありませんでした。
■語学関係の準備：
英会話の練習を積んでおくべきだったと思います。自分の英語力では言いたいことをうまく伝えられず、もどかしさを感じるが多かったように思います。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用：	
航空費	80,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	0 円
教科書代・書籍代	0 円

海外留学保険料(東京大学指定のもの)	9,000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■その他、補足等:	
■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	30,000 円
交通費	10,000 円
娯楽費	10,000 円
■その他、補足等:	
■プログラム参加のための奨学金の受給有無:	
受給した。	
■奨学金の支給機関・団体名等:	
JASSO	
■受給金額(月額):	
70,000 円	
■受給金額についての補足等:	
■奨学金をどのように見つけたか:	
大学(本部国際交流課)からの案内	

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:
留学のプログラムに組み込まれていたものをこなしていく中で新たに得たものも大きかったですが、普段の生活から離れて初めてわかることも多かったです。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:
様々な方々のお話を聞いたことが自分の人生設計について改めて考え直すきっかけとなり、自分の志望を経済学部に決めました。香港でのビジネスのお話も興味深く、いつか香港で働くのも良いかもしれないと思いました。
■進路・就職先(就職希望先):
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:
少しでも興味がわいたら申し込んでみるのが良いと思います。海外に行ったことのない方はぜひ。金額も少なくすみまし、指定された保険もあり、現地の学生さんたちが日本語を通訳してくれました。留学環境はとても恵まれていると思います。
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:
Go Global のウェブサイト、『香港を知るための60章』を図書館で借りて読みました。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 2018/08/30

- 参加プログラム: 香港大学-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-HongKong.html>
- 派遣先大学: 香港大学
- プログラム期間: 2018/08/02 ~ 2018/08/13
- 東京大学での所属学部・研究科等: 教養学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 1

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:
時間がとれると思ったので参加した。
■参加を決めるまでの経緯:
Go Global のホームページでプログラムの存在を知り、応募した。応募することについてほぼ迷いはなかった。それぐらい魅力的なプログラムに感じた。

プログラムについて

■概要:
予習用に資料が Drop Box を通じて配布されたので、講義前に読んでおく用に使っていました。講義だけでなく、フィールドワークが多く企画されており毎日が刺激的でした。
■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:
取り組んでいない。
■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:
二週間のプログラムで、そのほかの活動を行う時間がなかったため。
■週末の過ごし方:
プログラムのメンバーで香港の観光地に遊びに行った。その他には寮のラウンジで誕生日パーティーをしたりした。

派遣先大学の環境について

■設備:
香港大学の図書館と自習室が利用可能だったが、実際にはあまり使用しなかった。中央食堂はリニューアル中で利用不可だったので、割高だったがその他にある店を利用した。wifi 環境は万全とは言えなかったが、u-tokyo wifi よりは各段に繋がりがやすかった。
■サポート体制:
TA が二人いて、生活面でのサポートは彼・彼女らが行ってくれた。香港大学の学生は皆日本語・英語・北京語・広東語が堪能なので言葉に困ったときにもサポートしてくれた。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:
学生寮

■宿泊先の様子、どのように見つけたか：
参加者全員で香港大学の寮の一つである Shun Hing College に滞在した。個室と二人部屋の二種類があり、基本的に部屋割りには TA が決めてくれるが、個室の希望を出すこともできる。部屋の設備は、ベッド・クローゼット・机・枕・シーツ・掛け布団。各階のラウンジに冷蔵庫・電子レンジ・IH 調理器がある。最上階に洗濯機・乾燥機があり格安で使用可能。
■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等：
気候は東京とほぼ同じ。大学は街中にある。香港の交通機関は非常にわかりやすいうえに安い。食事は基本的においしかった。日本食レストランも多数あった。
■お金の管理方法、現地の通貨事情：
香港空港で三万円両替した。途中で足りなくなったので、クレジットカードで一万円ほど現地の ATM を使って引き下ろした。街中にも両替所はあるが怪しいところとそうでないところの区別が分かりにくいので、クレジットカードを持参することをお勧めする。
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理：
前述したとおり冷房の設定温度がおかしく、部屋の中が非常に寒いので体調を崩す人が続出した。薬を持参すること・建物内では何かを羽織ること・よく寝ることなどの対策をした。治安については問題がなく、バスの中で落とした八達通(交通系 IC カード)が戻ってきたほど。
■自由時間に利用した交通手段：
タクシー、列車、バス
■プログラム期間中に利用したネット環境：
キャンパス Wifi

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き：
書類選考を経て参加した。今年は東大入試程度の倍率があったそうなので、志望動機の欄などは時間をかけて練ることが必要だと思う。英語の資格の書類は TOEFL の結果を紛失してしまい、TOEIC(975 点)で出した。
■ビザの手続き：
日本国籍であれば、特に手続きは必要なかった。
■医療関係の準備：
総合風邪薬・胃腸薬・頭痛薬・抗アレルギー薬を持参した。香港は冷房が異常なほど効いており、多くの人が体調をくずしていたので飲みなれた薬を持っていくことは必須。
■保険関係の準備：
プログラム指定のものに指示された通りに加入した。
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き：
教務課に渡航届を提出した。一年生は単位取得をできないので、その他の手続きは行わなかった。
■語学関係の準備：
フランス語選択であるので、中国語(広東語)はまったくわからなかった。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:	
航空費	50,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	30,000 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	50,000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■その他、補足等:	
■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	25,000 円
交通費	5,000 円
娯楽費	20,000 円
■その他、補足等:	
■プログラム参加のための奨学金の受給有無:	
受給した。	
■奨学金の支給機関・団体名等:	
プログラム指定のもの	
■受給金額(月額):	
70,000 円	
■受給金額についての補足等:	
■奨学金をどのように見つけたか:	
大学(本部国際交流課)からの案内	

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:
上の学年の方々と関わったのは非常に刺激になった。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:
かねてから海外勤務をしたいと考えていたが、今回のプログラムを通じてその思いがより強まった。
■進路・就職先(就職希望先):
民間企業
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:
非常におすすめのプログラムです。
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:
Go Global のウェブサイト。本プログラムの過去の体験談。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 8/28/2018

- 参加プログラム: 香港大学-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-HongKong.html>
- 派遣先大学: 香港大学
- プログラム期間: 8/2/2018 ~ 8/13/2018
- 東京大学での所属学部・研究科等: 教養学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 1

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:
授業がない分プログラムに集中できるから。
■参加を決めるまでの経緯:
香港大学に興味があった。

プログラムについて

■概要:
Dropbox で事前に読む資料を与えられ、講演を聞く前までに各自で資料を読むというスタイルでした。
■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:
取り組んでいない。
■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:
プログラムのスケジュールが詰まっていて時間がなかった。
■週末の過ごし方:
プレゼンの準備、街で遊ぶ。

派遣先大学の環境について

■設備:
Wifi 環境は良かった。食堂は安くて美味しかった。図書館を使う機会はほとんどなかった。
■サポート体制:
常に TA や中野先生が体調を気遣ってくださいました。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:
学生寮
■宿泊先の様子、どのように見つけたか:
ルームメイトに案内してもらった。
■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等:
気候は蒸し暑く、室内は冷房がとても激しい。室内用に厚着を準備したほうがいい。食事は大学内や街に安くて美味しいものがたくさんあった。

■お金の管理方法、現地の通貨事情:
地元の店ではクレジットカードが使えない店が多い。現金が足りなくなりがち。
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理:
冷房で風邪をひきました。気をつけてください。
■自由時間に利用した交通手段:
タクシー、列車、バス
■プログラム期間中に利用したネット環境:
キャンパス Wifi、SIM

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き:
参加動機の記入
■ビザの手続き:
14 日間観光ビザ
■医療関係の準備:
パブロンを持って行きました。予防接種はしませんでした。
■保険関係の準備:
大学推奨のもの。大学からの案内通りに手続きしました。
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き:
海外渡航届けを出しました。
■語学関係の準備:
なし

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:	
航空費	80,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	30,000 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	5,500 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■その他、補足等:	

■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	20,000 円
交通費	2,000 円
娯楽費	5,000 円

■その他、補足等：
■プログラム参加のための奨学金の受給有無：
受給した。
■奨学金の支給機関・団体名等：
JASSO
■受給金額(月額)：
70,000 円
■受給金額についての補足等：
■奨学金をどのように見つけたか：
大学(本部国際交流課)からの案内

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感：
プログラム参加者と仲良くなれたこと、香港について多角的に深く知れたことが良かった。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響：
どんな風に生きても最終的には自分のやりたいことに落ち着くのだということを先輩の話を聞いて思いました。
■進路・就職先(就職希望先)：
民間企業
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス：
短期派遣プログラムは短期集中で文化を体験できます。たかが 2 週間されど 2 週間、充実な時間を過ごすにはうってつけのプログラムだと思います。
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物：
客路旅行(ディスカウントアプリ)

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 8/28/2018

- 参加プログラム: 香港大学-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-HongKong.html>
- 派遣先大学: 香港大学
- プログラム期間: 8/2/2018 ~ 8/13/2018
- 東京大学での所属学部・研究科等: 教養学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 2

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:
前期教養課程の時間のあるうちに、留学しておきたいと思ったため。
■参加を決めるまでの経緯:
動機は、高校時の海外派遣(ボストン)で良い経験が得られたので、今回はアジア系の国にしたいと考えた。参加すると決めたのは、5 月中旬。参加について迷ったことは、講義を受けるにあたって、語学力が足りるかどうかという点である。

プログラムについて

■概要:
授業のあとに、briefing/debriefing があった。元財務長官である John Tsang 氏のご講演が印象に残った。実際の企業活動の様子を見る機会が多かった。
■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:
文化活動
■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:
香港滞在中に香港の文化を学べるような場所(寺、博物館)などに訪れた。
■週末の過ごし方:
プレゼンの準備や観光

派遣先大学の環境について

■設備:
多くのラーニングコモンズがあり、Wi-Fi も強いので快適である。
■サポート体制:
先生とは少し離れて過ごしたが、TA のサポートがあり、助かった。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:
学生寮
■宿泊先の様子、どのように見つけたか:
2 人のルームシェアであり、オートロックであった。プログラムで決められていた。

■ 気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等：
天気の悪いときは、スクールがあつたりするが、雨宿りをすればよい。交通機関は発達しているので特に心配はいらない。食事はローカルなものが、安くておいしい。ただし、現金が必要となる。A-1 ベーカリーやスーパーではクレジットカードが使えるので、困った時はそちらをつかってよい。
■ お金の管理方法、現地の通貨事情：
海外送金については、事前にカードについて準備が必要となる場合があるので注意が必要。
■ 治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理：
治安は非常に良い。医療の状況も良いのではないかな。
■ 自由時間に利用した交通手段：
タクシー、列車、バス
■ プログラム期間中に利用したネット環境：
キャンパス Wifi、SIM

参加前の準備・手続きについて

■ プログラムへの参加手続き：
渡航情報届、奨学金の申し込みなどがあり、配布資料をよく読めばできるはずである。
■ ビザの手続き：
特にビザはとっていない。
■ 医療関係の準備：
常に使っている薬ならば、複数を別々に持って行ったほうがいいだろう。
■ 保険関係の準備：
プログラムで加入が義務付けられていた。ない場合には、自分で用意したほうがいいだろう。
■ 東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き：
海外渡航届を提出する必要がある。
■ 語学関係の準備：
IELTS6.5。シャドウイングが有効だろう。

費用・奨学金に関すること

■ 参加するために要した費用：	
航空費	35,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	30,000 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	0 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■ その他、補足等：	
プログラム料金が3万円だったのですが、そこに授業料・施設使用料と海外留学保険料が含まれ、内訳は不明です。	

■留学先で費やした生活費：	
家賃	0 円
食費	20,000 円
交通費	1,000 円
娯楽費	5,000 円
■その他、補足等：	

■プログラム参加のための奨学金の受給有無：
受給した。
■奨学金の支給機関・団体名等：
JASSO
■受給金額(月額)：
70,000 円
■受給金額についての補足等：
■奨学金をどのように見つけたか：
大学(本部国際交流課)からの案内

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感：
香港という独特な地域についての、深く掘り下げた調査を通して、日本では得られないようなものの見方が身についたと感じる。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響：
さまざまなビジネスについてのお話を聞くことで、ビジネスの世界で生き残っていくには何が必要なのか、どういう戦略を立てるのが重要なのか、ということを考えた。
■進路・就職先(就職希望先)：
専門職(法曹・医師・会計士等)、民間企業
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス：
絶対に参加することで後悔することはないプログラムです！さまざまな見聞が得られますよ！
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物：
特にないです。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 8/24/2018

- 参加プログラム: 香港大学-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-HongKong.html>
- 派遣先大学: 香港大学
- プログラム期間: 8/2/2018 ~ 8/13/2018
- 東京大学での所属学部・研究科等: 教養学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 1

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:

大学入学後最初の留学は早いほうがいずれ長期留学をするにも有利だと感じたため。

■参加を決めるまでの経緯:

高校時代の台湾での巡検が面白かったため、ほかのアジアの地域にも行ってみたいと感じた。5 月頃。欧米に行くのも候補には合ったためそれなりに迷った。

プログラムについて

■概要:

話をさせていただく方についての資料はドロップボックスに上がり、それを前読みすることが予習であった。印象に残っている授業は citysuper の見学のフィールドワーク。

■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:

取り組んでいない。

■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:

2 週間しか滞在期間がなく、かつスケジュールは固定されていることが多かったため。

■週末の過ごし方:

グループでの観光。

派遣先大学の環境について

■設備:

図書館は広かった。スポーツ施設については利用していないためわからない。食堂はそれなりに安く特別汚いということはない。WIFI は途中でつながらなくなったがこちらの端末のせいであると思われる。

■サポート体制:

特になかった。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:

学生寮

■宿泊先の様子、どのように見つけたか:

そこそこきれいな香港大学の所有する寮で、プログラムに含まれていた。

■ 気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等：
異常に湿気が高く、大学周辺にはそれなりに食事をするところがあり、交通機関も発達していて行きたいところには地下鉄で自由に行くことが出来る。食事はさまざまな所で売っているので、食事に困ることは絶対にありません。
■ お金の管理方法、現地の通貨事情：
クレジットカードを利用できるところでは利用し、それ以外は日本から持参した香港ドルを使った。
■ 治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理：
体に負担を感じたら無理をせず休む。
■ 自由時間に利用した交通手段：
列車、バス、Uber
■ プログラム期間中に利用したネット環境：
キャンパス Wifi、SIM

参加前の準備・手続きについて

■ プログラムへの参加手続き：
奨学金を受け取るための資料、東京大学に提出する資料を提出した。英語能力の証明の印刷をした。
■ ビザの手続き：
していない。
■ 医療関係の準備：
胃薬は大切。
■ 保険関係の準備：
東京大学が指定している保険に加入した。
■ 東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き：
何も行っていない。
■ 語学関係の準備：
英会話は出来る程度。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用:		
航空費	70,000	円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	30,000	円
教科書代・書籍代	0	円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	5,000	円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0	円
■その他、補足等:		

■ 留学先で費やした生活費：

家賃	0 円
食費	20,000 円
交通費	10,000 円
娯楽費	5,000 円
■その他、補足等:	
■プログラム参加のための奨学金の受給有無:	
受給した。	
■奨学金の支給機関・団体名等:	
JASSO	
■受給金額(月額):	
70,000 円	
■受給金額についての補足等:	
■奨学金をどのように見つけたか:	
大学(本部国際交流課)からの案内	

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:
上と同じ。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:
海外に長期留学し、英語能力を高めたいと思った。日本にいる時もこれまで以上に英語の勉強に励みたい。
■進路・就職先(就職希望先):
公的機関、民間企業
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:
あまりモチベーションがなくても海外に行ってみると新しい発見もあるので参加してみるといいと思います。
■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:
なし。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 2018/11/12

- 参加プログラム: 香港大学-東京大学合同サマープログラム
- プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-HongKong.html>
- 派遣先大学: 香港大学
- プログラム期間: 2018/08/02 ~ 2018/08/13
- 東京大学での所属学部・研究科等: 教養学部
- 学年(プログラム開始時): 学部 2

■参加にあたってこの時期を選んだ理由:
長期休み期間であり、インターン等で忙しくない二年生のうちに行っておきたいと思ったから。
■参加を決めるまでの経緯:
期末前ごろに夏期プログラムへの参加を検討し始め、他のプログラムと若干迷ったが、香港やビジネスに対する興味からこのプログラムへの参加を決めた。

プログラムについて

■概要:
香港のビジネスリーダーによるレクチャーが中心で、レクチャーを聴いて興味を持ったことについてプレゼンを行った。事前に先生方が用意してくださった資料を読んで臨んだ。John Tsang のレクチャー、質疑応答が非常に興味深かった。航空貨物施設の見学も貴重な機会だった。
■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:
文化活動、現地学生との交流
■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:
ビクトリア・ピークや黄大仙、ビクトリア・ハーバーの観光は貴重な体験となった。香港大学、東京大学両方の学生と親交を大いに深めることができ、班員とはもちろん、他班の学生とも今後も連絡を取り続けている。
■週末の過ごし方:
班員と都市部や観光地へ出掛けたり、他班の学生と混じって食事をしたりした。

派遣先大学の環境について

■設備:
大学内では図書館が会議や調べ物に非常に役立った。また wi-fi 環境が充実していた。カフェテリアも数軒あり、昼食の用意に困ることはなかった。
■サポート体制:
英語によるレクチャーで少々苦勞したが、香港大学の学生によるサポートによって理解が深まった。生活面・精神面でも香港大学の学生に大いにサポートをもらった。

プログラム期間中の生活について

■宿泊先の種類:
学生寮

■宿泊先の様子、どのように見つけたか：
香港大学から二駅ほど、二人部屋。トイレ、お風呂はフロア内。

■気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等：
夏の香港の気候は蒸し暑く、近年の日本の夏とほぼ変わらなかった。大学周辺はビル街で、近くに学生おすすめの安価な定食屋が数件あった。地下鉄、バス等の交通の便が非常に良い。食事はファストフード、レストラン等充実しており、選択肢が多い。
■お金の管理方法、現地の通貨事情：
基本、現金(香港ドル)での支払い。
■治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理：
現地の学生からは一人での外出を心配されたが、見るからに治安が悪いということはない。また多様な国籍の人々が入り交うので、一人で都市部を歩いたり、寂れた場所に一人で立ち入るのは危険そうだと感じた。基本、現地の学生と行動していたので不安や体調不良もなく、健康に過ごせた。
■自由時間に利用した交通手段：
タクシー、列車、バス
■プログラム期間中に利用したネット環境：
SIM

参加前の準備・手続きについて

■プログラムへの参加手続き：
渡航情報届(教務課へ)、OSSMA 加入
■ビザの手続き：
なし
■医療関係の準備：
なし
■保険関係の準備：
OSSMA 加入
■東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き：
なし
■語学関係の準備：
英語による意思疎通ができれば十分だった。

費用・奨学金に関すること

■参加するために要した費用：	
航空費	53,000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	30,000 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	3,240 円

保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円
■その他、補足等:	

■留学先で費やした生活費:	
家賃	0 円
食費	30,000 円
交通費	5,000 円
娯楽費	10,000 円
■その他、補足等:	
SIM カードに 5,000 円ほど	
■プログラム参加のための奨学金の受給有無:	
受給した。	
■奨学金の支給機関・団体名等:	
JASSO	
■受給金額(月額):	
70,000 円	
■受給金額についての補足等:	
■奨学金をどのように見つけたか:	
大学(本部国際交流課)からの案内	

プログラムを振り返って

■プログラムに参加したことの意義、その他所感:
ビジネスリーダーのレクチャーによって、ビジネスへの興味、モチベーションが一層強まったとともに、語学に長けた現地学生に刺激を受け、英語・中国語へのモチベーションが強まった。
■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:
ビジネスに大きく関わるキャリア設計が自分の中で大きなものとなった。
■進路・就職先(就職希望先):
公的機関、民間企業、起業、経産省等の公的機関、またコンサル企業への就職
■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:
交友関係を広げる良い機会だと思うので、是非短期間のものでも積極的に参加することをお勧めします。
■準備段階やプログラム参加中に役に立ったウェブサイト、出版物:
特になし